

What IS IT?

1997 vol.4
新春号

●発行
 (財)九州システム情報技術研究所
 Institute of Systems & Information Technologies/KYUSHU
 〒814 福岡市早良区百道浜2丁目1-22-707
 (福岡S R P センタービル7F)
 Fukuoka SRP Center Building 7F 2-1-22,
 Momochihama, Sawara-ku, Fukuoka City 814, Japan
 TEL 092-852-3450 FAX 092-852-3455
 URL : <http://www.k-isit.or.jp>
 E-mail : koho@k-isit.or.jp
 印刷:(株)トミックスコーポレーション

新春座談会

NEW YEAR ISIT SPECIAL TALK

福岡ソフトリサーチパーク

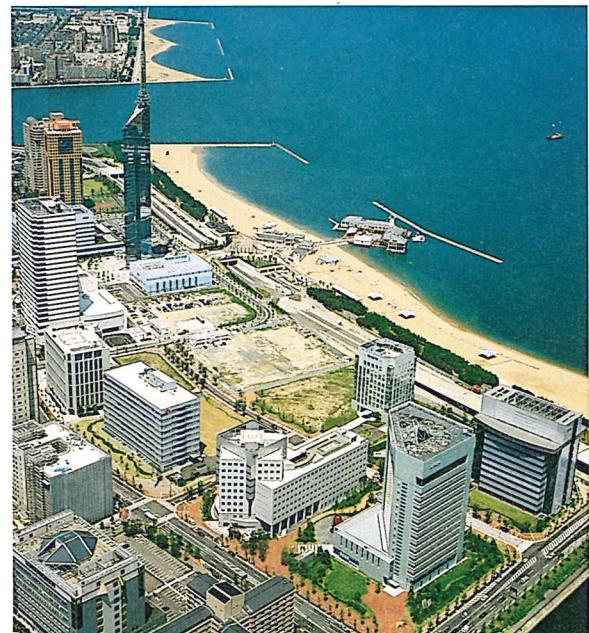
—21世紀への発展—

福岡ソフトリサーチパーク(SRP)は21世紀の新しい都市型情報産業育成と研究開発機能強化の拠点として昨年春シーサイドももちに誕生した。現在国内外の情報関連企業約70社が集積している。

SRPの中心的な4人の方にその現状と未来について述べていただきた。座談会ではももちの環境の素晴らしさ、SRPこの1年の成長、企業は共生の時代、人ととのつながりの重要性などが語られた。司会は柳善博・本研究所専務理事



左から長田所長(ISIT)・牛島専務(福岡SRP)・田中部長(富士通)・内村社長(日本システムスタイル)



福岡SRPは福岡タワー・福岡ドーム間に位置し、海側右からNEC、松下電器、麻生・日本IBMグループ（建設中）、日立、SRPセンタービル、富士通、福岡シティ銀行・韓国大宇グループの7つのビルで構成されている

ごあいさつ

新年あけまして

おめでとうございます。



21世紀は「東アジアの時代」といわれますが、日本の中では地理的に近い九州が活躍しなければならない時代だと思います。そのためには、空港・港湾・情報のインフラ整備が欠かせません。



九州システム情報技術研究所は、

理事長 兼尾 雅人



昨年4月シーサイドももちに施設オープンし、ハードウェア／ソフトウェア協調設計手法やマルチメディア通信システムなどの自主研究や地場企業との共同研究などを本格的に始めました。また、定期交流会・技術セミナーの開催等を通じて研究員間の交流を図るなど福岡ソフトリサーチパークの中核的研究所としての役割を果たしてきています。研究員や設備の充実も図っており、

今年はその真価を問われる年になります。情報産業発展の年になるよう研究所員一同気持ちを新たにしています。



今後とも情報発信基地をモットーとする研究所の活動に対してご理解、ご協力をいただくとともに、新年がみなさまの飛躍の年であり輝かしい21世紀へつながるようお祈りしています。

新春座談会

新年あけましておめでとうございます。
みなさんそれぞれの夢を持って新年を迎えたことだと思います。

福岡ソフトリサーチパーク(SRP)はスタートして1年が過ぎようとしていますが、本日はその現状とさらなる発展のためのご意見をそれぞれの立場からお話しいただきたいと思います。

窓の景色は「天然の額縁」です(田中)

一ももちの周辺環境はどのように評価されていますか。

内村 海が近いせいか空気が明るいですね。オフィスも天井が高くて素晴らしい環境になり社員はみんな喜んでいます。

田中 眺望が良く、窓がまさに「天然の額縁」です。能古島をバックにした夕日や秋の紅葉・冬の落葉も美しく、富士通研究所では川崎のころよりも生産性が上がっているとのことです。

牛島 入居してきた昨年1月15日は本当に寒い日でまだ閑散としていましたが、ももちに福岡の新しい顔、情報発信基地にふさわしいニュービジネス街ができあがつたという感じです。

長田 自然の風景と人工物がマッチしており、昼休みの散歩でも新しい発見があります。開放感にもあふれています。

マイナス面はどうでしょうか。

牛島 アフターファイブを楽しめる場所がもう少し欲しいですね。

田中 仕事帰りや昼休みにふらりと立ち寄れる本屋も欲しいですね。

長田 そうですね。

牛島 当初計画にはありましたか、採算がとくにいいということで断られました。しかし、確かに必要ですね。

一交通アクセスはどうでしょうか。

牛島 バスが何度も増便され、ずいぶん便利になりましたが、ドームの野球や雨の日などは渋滞しますね。バス以外の交通機関もできたらいいなと思っています。

内村 うちでは天神・博多駅経由の通勤者が多いですが、都市高速経由のバスが増えたため博多駅

裏のところとあまり時間的に変わらず通勤面の問題はほとんどありません。ただ、昼間営業で都心に出る時は少し不便ですね。

—SRPの人口も増えましたが、若者・女性が目立ちますね。

牛島 現在SRP全体で約4,800人、センタービルだけでも760人が働いています。女性の方も多いですね。

田中 富士通グループは現在4部門1,100人が入居しており、平均年齢は30才前半ぐらいです。また、女性が多い原因のひとつに女性のシステムエンジニアが増えたことが挙げられます。

内村 平均年齢は31才です。ここ何年かは控えていましたが、今後女性もどんどん採用する必要があると思っています。

長田 研究所(ISIT)も女性研究助手を採用しましたが、将来的には女性研究員の受入れも考えています。

見学者は県外や海外からが目立ちます (牛島)

—SRPの知名度の目安として見学者がありますかいかがですか。

牛島 SRPセンタービルの視察に訪れる団体等が月平均10件あり、10月は20件もありました。県内よりも県外が多いです。海外からも東アジアを中心に月1~2件あります。今ではキャラルシティーSRP—福岡ドームが福岡市の見学コースになっていると聞いています。

長田 研究所も外部の人達に現状を知つてもらい、今後のご協力をいただくために大学の先生方などの見学会を行っています。

—京都ASTEM(京都高度技術研究所)や岐阜ソフトピアジャパンなどと比較してどうですか。

長田 今後、あちこちに類似施設ができるいくでしょうが、特徴を出せない所は存在感が薄れていくでしょう。幸いここSRPにおける情報関係企業の集積度は日本一いや世界でも類がないのではないかと思いますし、福岡は理工系大学の数の人口に対する比率の高さが日本有数の地域

でもあります。またアジアにも近い。この優れた特徴を伸ばしていきたいものです。

—インターネットやホームページの開設状況はいかがですか。田中部長は個人でもホームページを出しておられるそうですね。

田中 自分のホームページを見てもらうために通常の名刺のほかにプライベート名刺を作つて親しい人に渡しているくらいです。(笑) The鴻臚館(こうろかん)のホームページでは福岡市の文化発信の一翼を担わせていただいている。2階のメディア鴻臚館は見学者が900名を越えました。

牛島 福岡市役所のホームページをSRPで開設していますが、アクセスは月平均8,000件、SRPだけでも月3,000件ぐらいです。間違つてアクセスしたのもカウントされているのでしょうか…(笑)

長田 研究所も移転してきて早々にホームページを開設しました。とにかく見てもらわないといけないと思っています。

内村 ホームページは独自に作つており、人材募集は常時流しています。

中小企業もバラエティーと共生の時代です (内村)

—昨年の活動状況を教えてください。

内村 最近の情報産業界は技術の多様化や納期の短縮化により、中小企業が一社だけで対応していくのが難しい時代になっています。つまり「バラエティーと共生の時代」です。各社が得意分野を持ち寄り、プロジェクトの受注につなげていく必要があります。私どもHISCO(ハイテクノロジー・ソフトウェア開発協同組合)でも、受注情報をオープンにし、互いに補完し合いながら仕事を進めていこうとしています。

田中 富士通R&DセンターはICカードやATM交換機等の新しい機能を盛り込んだトライアルの場として活動してきました。また、福岡市博物館の「遙かなる長安」展に筑紫鴻臚館コンピュータグラフィックスコンテンツを出展させていただきました。「子供さんのみならず、ご婦人や年配の方がマウスに触



牛島 咲文(うじじま てるよし)
(株)福岡ソフトリサーチパーク代表取締役専務
博多区長・福岡市環境局長を経て現職
SRPセンタービルの中心的存在
佐賀県出身 59歳



田中 七四郎(たなか しちしろう)
富士通(株)西日本営業本部地域プロジェクト
担当部長
立地企業の先陣を切った富士通R&Dセンター
の計画段階から従事
北九州市出身 53歳



夏休み子供インターネット体験教室
(福岡SRPセンタービル2F実習室)

つておられ、この1~2年でパソコンに対する親近感は随分変わりました」と学芸員の方はおつしやつていました。私どもは従来の静的な博物館から体験型の動的な博物館への移行を提案しています。

牛島 昨年の春先は大変心配していましたが、現在SRPセンタービルの入居契約が70%近くになりました。施設利用については、大ホール、視聴覚研修室が特に多いようです。夏休みの「子供インターネット教室」は大変好評で、5日間で250人の募集があつという間にいっぱいになりました。福岡市では初めてのインキュベート事業(研究開発型企業育成)も始めましたが、またたく間に予定の10室が埋まってしまいました。4階にはオープンラボの設備もあります。今年は全般にわたって更に充実したものにならなくてはと考えていますが、特に一般市民向けの企画にも積極的に取り組もうと思っています。

長田 私ども研究所の目的は産学官協調のもと研究、交流、コンサルティングを行うことです。産学官協調と言つても基本は人ととのつながりだと思います。定期交流会は好評で平均70~80名の参加があります。

技術セミナーも年3回実施します。今後は、シリアル型(フィード・フォワード型)から並列型(フィード・バック型)共同研究へと変わる必要があると思います。互いに学びながら、素晴らしいものを作り出す新しいタイプの共同研究をやることが私の夢です。

—SRPへの外国系企業の進出や外国との関係はいかがですか。

牛島 現在大宇電子・大宇通信などの韓国大宇グループ及び日本IBMがソフトリサーチパークに参加されており、センタービル10階にはドイツのTÜVラインランド技研などが入居しております。地場企業への刺激になるので積極的に誘致したいと思っています。

長田 オープニングイベントでも中国・韓国・マカオの先生方を呼んでパネルディスカッションを行いました。アジアやその他の地域にもネットワークを広げていきたいと考えています。

内村 取引先のアパレル関連企業がベトナムに



内村 祐基(うちむら ゆうき)
日本システムスタディ(株)代表取締役
HISCO(ハイテクノロジー・ソフトウェア開発協同組合)九州支部長
SRPセンタービルに入居
埼玉県出身 51歳

①

長田 正(ながた ただし)
(財)九州システム情報技術研究所所長(兼副理事長)
SRPセンタービルに入居
電子技術総合研究所情報制御研究室長、九州大学工学部情報工学科教授を経て現職
日本ロボット学会副会長 工学博士
福岡市出身 64歳



①

工場進出していますが、その生産管理ソフトや給与支払ソフトを作りました。また、HISCO会員でNTTと組んで中国の仕事をしているところもあります。生産力とマーケットの両面から中小企業といえどもアジアとの関係を避けては通れない時代になっていると思います。

「志はグローバルに心配りはローカルに」 (長田)

—SRPのさらなる発展のための方策はありますか。またSRPやISITに何を期待されますか。

内村 中小企業は技術はあるがマネージメントがうまくいかない面があります。マネージメントを含めた技術相談ができたら各企業は発展し、結果としてSRPの発展につながると思います。

田中 本日は新春座談会ということで、お屠蘇が効きすぎて口が渇りますが、5月に開催されるADB(アジア開発銀行)総会に向けてSRP全体が共通の目的で作業ができれば交流も具体的になるのではないかと思います。是非福岡SRPさんに音頭をとつてもらいたいですね。シーサイドももちろん病院、博物館、図書館、学校、アミューズメントなどの様々な施設がそろっており、かつ光ファイバーが各建物まで来ている環境を活用したいですね。地域共通のICカード等により、EC(電子商取引)、遠隔治療、博物館・図書館の情報検索などの実験をすればと考えています。また、個人的には鴻臚館コンテンツの次は邪馬台国コンテンツをねらっています。地元出身の有名人でホームページやCGを作るのもおもしろいですね。

牛島 「これだけ大手と地場の情報産業が集まっているのだから、その村長さんとして一体感を持てる何かをしてほしい」とよく言われますが、何をすべきかいつも頭を悩ませています。「多くの企業が福岡SRPで育ち、アジア・太平洋に大きく羽ばたいていく」そうなってほしいと思っています。

長田 「志はグローバルに 心配りはローカルに」具体的に動けるものから動くことを考えています。

日本でベンチャー企業が育ちにくいのは、事業投資を客観的に評価するシステムが確立されていないからです。そこがアメリカとの違いです。将来ISITを中心にその評価システムを確立し、福岡SRPからベンチャー企業が続々と生まれ、世界へ広がつていつたらいいなと思っています。

内村 福岡で発注された仕事が東京・大阪を通じて戻ってくるのではなく、「地元の仕事は直接地元でやりたい」というのが今年の目標です。一企業の壁が障害にならないでください。

田中 例えば半導体はものすごい設備投資が必要で、一社ではできにくく世界的な分業体制に入っています。また、自社部品よりも台湾等他社製が安ければそれを使っています。既にパソコンの外注率は9割を越えています。どこが安いか真剣に見る人はホームページをそんな目で見てください。会社のホームページも社長の顔だけではダメで、見る人にビジネスチャンスを与える絞り込んだ情報を有効だと思います。

内村 大変参考になりました。HISCOでもホームページ作りに取り組んでおり、今年は全国のソフトウェア団体ともリンクしようとしています。是非ご覧になってください。

本日は新年の熱き思いをそれぞれの立場からお話しidadきました。夢の実現に向かって前進され、年を重ねることに福岡ソフトリサーチパークが発展していくことを願っております。ありがとうございました。



情報関連企業30数社が入居しているSRPセンタービル

第7回定期交流会のご案内

- 日 時 平成9年2月14日(金)午後4時~6時半
- 場 所 福岡SRPセンタービル2階 視聴覚研修室
- 講 師 松下電器産業(株)マルチメディア開発センター
画像情報第2チームリーダー 戸倉 毅
- テーマ『DVD規格の概要とソフト制作について』

DVD(Digital Video Disc)は次世代光ディスクの本命として注目を集め、昨年9月DVD-ROMとDVD-Videoの規格化が完了し、11月には最初の商品としてDVD-Videoプレーヤーが発売されました。

DVD-Video規格はDVD-ROM規格のファイルシステム上に定められた応用規格です。本規格は高画質高音質映像ディスクを目指すとともに、映像を主体としたインターラクティブ・タイトルを実現するための豊富な再生制御機能を持っています。

今回はDVD規格の全体像とVideo規格の概要について解説し、DVD-Videoソフトの制作環境についても紹介します。

■締 切 平成9年2月12日(水)

会費は懇親会費を含み2,000円です。どなたでも気軽に参加できます。申込みはFAXまたはE-mailで事業部までお願いします。

FAX 092-852-3455 E-mail:koryu@k-isit.or.jp 担当:鬼木、国生

ISITホームページ更新

「技術セミナーのご案内」「福岡オンライン認証実験プロジェクト」のページを新設しました。現在ISITでの研究内容や研究成果のページを作成中です。ISITホームページに関するご意見は webmaster@k-isit.or.jpまでお寄せください。

URL : <http://www.k-isit.or.jp/>



第1回技術セミナー報告

11月20日(水)第1回ISIT技術セミナー「電子マネーのゆくえ」を開催しました。新聞・雑誌等でも頻繁に取り上げられ、注目されているテーマもあり64名が参加されました。

第1部 「インターネットにおける認証について」

講師:(財)九州システム情報技術研究所 第二研究室
山崎 重一郎 研究員

インターネット上の電子取引や電子マネーの運用基盤である電子認証技術について解説した。公開鍵・秘密鍵暗号を使った認証・デジタル署名・認証インフラストラクチャー・電子決済プロトコル等を説明し、ISITで計画中の電子認証実験についても紹介した。

第2部 「電子マネーの現状と今後の展開について」

—モンデックスを中心とする実現方式・今後の展望—
講師:(株)日立製作所 新金融システム推進本部
祝 裕太郎 副本部長

電子マネーの特徴や種類とともに英国地方都市において実証実験中で、昨年10月より香港でも大規模に展開されているICカード型モンデックスマネーをビデオを交えて紹介した。また、実際のカード・残高表示器・電子財布も全員手にとって見ることができた。

第2回技術セミナーは2月開催予定ですが、決まり次第ホームページでお知らせします。

新賛助会員紹介

[法人会員] (株)ワコム (株)オーニシ (社)福岡貿易会
伊藤忠テクノサイエンス(株)福岡支店
日本コンピュータマインド(株)
(株)ディレクターズカンパニー

[個人会員] 今仁 和武 田中 雅人

法人会員56社、個人会員7名となりました。

編集室より...第四号

ISITの活動を皆さんにご理解いただきため、広報誌に加えWWWホームページ開設や研究所入口壁面に12枚の来所者説明用パネルの掲示を行っています。

ISITホームページでは情報発生の都度各部署で内容を更新し、より早く正確な情報を反映できるよう心掛けています。とは言つても、ISITが設立されてまだ1年、事務職員はパソコンなど初めて触った人が大半であり、私自身もホームページの作成はおろか、WWWのページを初めて見たの

もここに来てからです。内容を少し変える・絵を1枚入れるということでもすつもんだの繰り返しだけですが、週に1度位はどこかのページが変わっています。ISITの最新情報は、まずホームページを見てください。

研究内容の詳細について知りたい方はお気軽に来所ください。研究所入口のパネルを使い研究員が具体的に説明します。

(プロジェクト推進部 山下)

